

使命

目標

現状と課題

2019年度の主な取組内容

期待される効果

環境負荷の低減と自然との共生の確保

循環型社会の形成

低炭素社会の形成

安全で快適な生活環境の創出
自然共生社会の形成

1

- ごみ総排出量【現状】
 - ・2017年度実績は約11万7千トンで、計画最終目標値(2027年度)まで約1万7千トンの削減が必要。
 - ・約6割が「家庭ごみ」で、その約6割を占める「燃やせるごみ」のうち、約4割が「生ごみ」。
 - ・約3割が「事業系ごみ」で、その約9割を占める「燃やせるごみ」のうち、約5割が「古紙類」。
- ごみ総排出量【課題】
 - ・計画目標の達成に向けて、特に2R(3Rのうち、Reduce(発生抑制)、Reuse(再利用))の取組の強化が必要。

2

- 缶・びん等資源物中間処理施設【現状・課題】
 - ・2018年度は事業手法等を決定し、基本構想の策定に向け、附属機関での審議やパブリックコメントを実施。
 - ・事業用地の選定や事業者が提案しやすい募集要件の設定が必要。
- 清掃工場【現状・課題】
 - ・2018年度は基本構想の策定に向け、附属機関での審議やパブリックコメント及び市民説明会を実施。
 - ・建設予定地周辺の住民理解を得て、円滑に事業を進める必要がある。
- 最終処分場【現状・課題】
 - ・2018年度は建設候補地の比較評価方法に基づき、庁内会議により建設候補地を選定。
 - ・建設候補地の地域住民との合意形成が必要。

3

- 生活排水処理【現状・課題】
 - ・生活排水処理率は概ね目標どおりであるが、合併浄化槽の普及に向けた継続的な取組が必要。

新・旭川市ごみ処理・生活排水処理基本計画【改訂版】

- 家庭生ごみ・事業系古紙の資源化の推進
- ごみ処理システムの再構築、次期処理施設の更新準備
- 市民・事業者・地域との協働による2Rの推進
- 基本計画の見直し

- 家庭ごみの減量・資源化の推進
 - ごみ減量化等啓発費【811千円】
 - 【生ごみマイスター連絡会を活用した、地域での生ごみ堆肥化の推進】
- 安定したごみ収集運搬体制の維持
 - ごみ収集運搬費【1,305,330千円】
 - 【ごみステーションに排出される家庭ごみの委託による収集運搬業務の実施(2018年度と同様の体制で実施)】
- ごみ処理システム再構築の検討、次期処理施設の整備・検討
 - 缶・びん等資源物中間処理施設整備費【30,799千円】
 - 【①事業受託候補者の選定に向けた審査委員会での審議、②建設候補地周辺の生活環境影響調査、③地域住民説明会を実施】
 - 清掃工場整備推進費【114千円】
 - 【①建設候補地周辺の地域住民に対して、清掃工場整備基本構想に関する説明会を実施、②全市民を対象に、清掃工場整備基本構想のほか、各ごみ処理施設整備の状況、新たなごみ処理システム、ごみ処理基本計画見直しに関する説明会を実施】
 - 次期最終処分場整備費【300千円】
 - 【最終選定した建設候補地の地域住民との合意形成を図るため、地域協議を実施】
- 現処理施設の維持管理(次期処理施設を整備するまで適切な維持管理)
 - 【各処理施設を更新年度(清掃工場：2026年度、最終処分場：2029年度、環境センター：2033年度)まで安定的に使用するため、施設保全計画等に基づき、改修等を実施】
- 合併浄化槽設置の推進
 - 浄化槽設置整備費【9,193千円】
 - 【公共下水道及び農業集落排水処理区域外で合併処理浄化槽を設置しようとする個人住宅に対して、設置費用の一部補助】
- 2R(発生抑制、再利用)の強化
 - ごみ減量アクション推進費【547千円】
 - ・食品ロス対策の実施
 - 【家庭から排出される生ごみに含まれる、食べられるにも関わらず捨てられている「食品ロス」対策として、発生要因を把握するためのモニター調査や、食品ロス削減のアイデア募集などを実施】
 - ・容器包装削減運動の実施
 - 【市民団体及び事業者団体と協力し、2R意識を醸成するための普及啓発活動を実施】
 - ・子ども子育て世代に向けた2R体験イベントの実施
 - 【体験型の啓発事業として、エコカーニバル、おもちゃの修理屋さん、おもちゃのくるくる広場を実施】
 - ・あさひかわエコショップ事業の実施
 - 【2Rへの取組の促進や市民の意識の醸成を図るため、2R等に積極的に取り組む事業所(店舗)を認定し、市民に認定店の利用を推奨】
 - ・事業系古紙資源化プロモーション事業の実施
 - 【許可業者と連携した古紙回収モデル事業や古紙回収協力店の利用促進を継続するとともに、新たな古紙資源化ルートの調査を実施】
- 安定した尿処理体制の維持
 - し尿処理費【146,621千円】
 - 【①市内のし尿を衛生的に処理するため、委託による収集運搬業務の実施、②市民の行事等のため、移動式公衆便所を貸し出し、清潔な環境衛生の推進(①②ともに2018年度と同様の体制で実施)】

旭川市地球温暖化対策実行計画

- 市民・事業者との協働による地球温暖化対策の推進
- 再生可能エネルギーの利用促進

- 多面的なエネルギー対策の推進
 - 地球温暖化対策推進費【282千円】
 - 【COOL CHOICEキャンペーンとして、民間団体との連携事業を実施・パネル展開催・リーフレット配布による啓発】
 - 地域エネルギー設備等導入促進費【2,973千円】
 - 【再生可能エネルギー設備等の導入費の一部を補助】

旭川市環境基本計画【第2次・改訂版】

- 外来種対策等による生物多様性の保全
- 市民・事業者・地域との協働による清掃活動・環境監視・公害対策・不法投棄防止の実施
- 基本計画の見直し

- 生物多様性の保全
 - 生物多様性保全費【7,117千円】
 - 【生物多様性保全推進協議会によるアライグマ捕獲体制の強化・ウチダザリガニの防除、アズマヒキガエル拡大防止に係る市民周知】
- 市民主体の地域美化の推進
 - クリーンあさひかわ推進費【1,472千円】
 - 【地域清掃活動の実施・ポイ捨て禁止運動の実施】
 - ごみステーション環境整備費【402千円】
 - 【ごみ適正排出協力員制度の継続実施】
- 不法投棄防止の強化
 - 不法投棄防止等推進費【3,265千円】
 - 【監視カメラ・啓発のほり増設による未然防止対策の強化】
- 市民が安心できる生活環境の確保
 - 鳥獣対策費【2,688千円】
 - 【ヒグマの出没対策の強化及びカラス被害防止対策の実施】
 - 公害監視測定費【27,130千円】
 - 【市内4箇所の測定局において大気環境を継続して監視し、大気汚染緊急時には報道機関、社会福祉施設、学校等にFAXを送付し広く市民に周知】

4

- 生物多様性の保全【現状・課題】
 - ・アライグマ・ウチダザリガニなどの特定外来生物や北海道の指定外来種アズマヒキガエルの生息域の拡大による、生態系への悪影響。
- ごみステーションでの不適正排出【現状・課題】
 - ・2017年度実績で約5万1千袋あり、その抑制が必要。
- 不法投棄【現状・課題】
 - ・2018年度実績で発見件数は321件あり、その拡大防止が必要。
- ヒグマ対応【現状・課題】
 - ・出没情報及び問題個体への対応の増加。
- 大気汚染対策【現状・課題】
 - ・2019年3月にPM2.5が高濃度となり注意喚起を実施。引き続き監視が必要。

- 家庭ごみの減量・資源化の推進
 - ・排出前の工夫・行動の拡大
 - ・2Rに係る普及啓発や学習機会の充実
- 事業系ごみの減量・資源化の推進
 - ・自主的なごみの排出抑制や分別の徹底
- ごみ処理システムの再構築
 - ・次期処理施設整備の計画的かつ着実な実施
- 安定的なごみ処理体制の維持
 - ・現処理施設の適切な維持管理
 - ・現処理施設の安全で安定的な運営管理
- 生活排水の適正処理
 - ・公共用水域の水質保全を図り、水資源が適切に循環

- 地球温暖化の抑制
 - ・温室効果ガス排出削減に係る市民の取組拡大

- 生物多様性の保全
 - ・外来種の効率的・効果的な防除による生態系の保全
- 市民との協働による快適な環境の実現
 - ・分別・適正排出が徹底されたごみステーションの実現
 - ・ポイ捨て防止による環境美化
 - ・不法投棄による環境悪化の防止
- 市民の安全・安心の確保
 - ・鳥獣被害の防止
 - ・公害監視体制の整備